

令和元年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 鳥取市立城北小学校 学校支援ボランティア（個人）		担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 森本 健一 所属（個人） 電話 080-1903-4271 ファクシミリ 0857-29-2064 メールアドレス morimotokyg@hi3.enjoy.ne.jp	
代表者氏名 森本 健一			
部門名 学校・NPO・任意団体等部門	事例名 小学校における水環境の授業（河川事業の記念行事における基調講演）		
事例の概要（適宜、写真、図、記事の画像等を挿入して下さい）			
<p>1 小学校における水環境の授業</p> <p>私は、平成20年度から、鳥取市内の小学校で3年生の総合学習「私たちの千代川（せんだいがわ）」の講師をさせていただいてきた。年に1度の授業は10年の節目を迎え、これまでの児童数は800人を超えた。（注：千代川は県都・鳥取市を貫流する一級河川。延長52km、流域面積1,190km²）校区内を流れ身近な川を取り上げながら、“水循環の一分野である下水道の大切さ”を学びに加えた。平成24年度に入るとGKPの個人会員となった。（余談：設立時の個人会員160名の大半が首都圏の方々。東海以西はごく少数である中、「人口最少の鳥取県の会員がいる」と“希少価値”が注目された。）児童に下水道の価値を理解してもらえよう、水を使った実験で興味を引くなど年々工夫を重ねてきた。日常生活における水循環を具体的に説明し、千代川の伏流水である上水道は道路下の管を通り蛇口から流れてくる。使用後の汚れた水は下水道として再び道路下の管を通り処理場へ流れつく。微生物により高級処理された水は再び千代川へと流れていき、下流域の水質が保たれ続ける。その結果、校舎から望める日本一の鳥取砂丘など世界ジオパークが美しく形成され、海水浴場で安心して泳ぐことができる。その過程に存する処理場は、ちょうど学校近くに県内最大規模の処理場として立地しており、リン回収やバイオマス発電にも取り組んでいることから、「処理場を見学しよう」と誘導した。こうして「宝の山・下水道」の価値を知って目を輝かせる児童に、「家族へも伝えて」と締めくくった。</p>			
<p>2 河川事業の記念行事における基調講演</p> <p>この千代川では、川を軸として流域の交流・連携を図り豊かな川づくりを目指すことを目的に、平成9年「千代川流域圏会議」が設立された。（事務局：国土交通省鳥取河川国道事務所）今年2月、20周年記念行事「千代川の明日を語る会」が開催され、私は基調講演を依頼された。講演では、川が地域の宝として輝く上で下水道が大きく寄与していることを次のように具体的に話した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県内には下水道管が3,300kmあり、将来へと維持管理していかなければならない。 ・世界ジオパークに認定された日本一の鳥取砂丘が美しく、海水浴場が清潔なのは下水道のおかげ。 ・昨年7月の豪雨を受けて更に災害へ備えていただきたく、視察した下水道災害の写真を紹介した。 <p>①東日本大震災～宮城県仙台市・南蒲生浄化センター～ 津波の圧力で歪んだ建物、多数の技術者が復旧に従事したことを表す巨大なPR看板</p> <p>②平成26年広島土砂災害（本県に隣接する広島県で発生） 土石流で剥き出しになった住宅密集地内の下水道管やマンホールの被災状況</p> <p>160余名の聴講者の大半は一般市民であり、後日には鳥取市内のケーブルテレビで記念行事の特別番組として講演が6回にわたりノーカット放送され、講演記録集も作成されるなどした。</p>			
エントリー事例の特徴 10年間にわたり、将来を担う子供たちへ下水道の大切さをボランティアで教えてきた。節目の年には河川行事で基調講演の機会をいただくなど、幅広い世代へ水循環における下水道の意義を共感いただいた。			
付属資料の提出	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	（どちらかに○）